ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日

三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其ノ製造ノ日（明治四十三年勅令第二百二十四號改正）

四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目、價格、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱（同上）

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價格、販賣ノ日及其ノ買受人住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者並砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（明治四十三年勅令第二百二十四號改正）

第二十八條ノ二　本令ニ於テ內地移入糖ト稱スルハ臺灣ヨリ移出シ內地又ハ樺太ニ移入スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ謂フ（大正三年勅令第三百四十五號追加）

第二十九條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ（明治三十五年勅令第二百五十二號改正）（大正三年勅令第三十四號改正）

第三十條　砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附　則

附　則（明治三十五年勅令第五十一號）

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十五年勅令第二百五十二號）

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年勅令第百八號）

本令ハ明治三十七年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年勅令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年勅令第二百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正三年勅令第三十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年勅令第百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五百八十四號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

附　則（大正十一年三月勅令第百七十三號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○煉乳原料砂糖戻税法（明治四十一年三月二十七日法律第二十七號）

第一條　政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ消費税ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條　收税官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十四年三月二十八日法律第四十號削除）

○煉乳原料砂糖戻稅法施行規則（明治四十一年三月二十七日勅令第四十九號）

第一條　煉乳原料砂糖戻稅法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスルモノハ其使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ承認ハ每回五百斤以上ノ場合ニ限リ之ヲ與フルモノトス

第二條　煉乳原料砂糖戻稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條　煉乳原料砂糖戻稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲナサムトスルモノハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニアリテハ引取ノ日及其引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

第四條　收稅官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法（明治四十二年三月三十日法律第十八號）

改正　明治四十四年三月七日法律第六號

第一條　消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ用ヰ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國ヘ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニヨリ其使用シタル砂糖ニ對シ消費稅ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ對シテハ明治四十三年法律第五十四號關稅定率法第七條第十七號ヲ適用セス（明治四十四年法律第六號改正）

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年三月三十一日勅令第六十三號ヲ以テ明治四十二年四月一日ヨリ施行）

附　則（明治四十四年法律第六號）

本法ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

○輸出菓子糖果原料砂糖戻税法施行規則（明治四十二年三月三十一日勅令第六十四號）

改正　大正五年十二月二日勅令第二百四十號

第一條　輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ニ依ル下付金額ハ菓子又ハ糖果中ニ含有スル甘蔗糖百斤ニ付金五圓トス但シ假置場ニ於テ砂糖製造場ヨリ直接引取リタル砂糖ヲ以テ製造シタル菓子又ハ糖果ニ付テハ其ノ原料砂糖ニ對スル消費税ニ相當スル金額トス（大正五年勅令第二百四十號但書追加）

第二條　一回ノ輸出菓子及糖果ノ數量三百斤ニ滿タサル場合ニ於テハ下付金ヲ請求スルコトヲ得ス

第三條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ菓子又ハ糖果ヲ左ノ開港ヨリ輸出スヘシ

横濱、神戸、大阪、長崎、門司

第四條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ輸出ノ際關税法施行規則第三十四條第一項ニ依ル申告ノ外菓子又ハ糖果ノ種類、毎種類ノ數量、製造者ノ氏名及製造ノ場所ヲ税關ニ申告シ甘蔗糖ノ含有量ニ付檢定ヲ受クヘシ但シ第一條但書ニ依ル下付金ヲ請求セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス（同上）

第五條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書及外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シテ輸出港税關ニ提出スヘシ

第一條但書ニ依ル下付金ヲ請求セムトスル者ハ前項ノ書類ノ外砂糖製造場所轄税務署ノ消費税納税濟證明書及假置場所轄税關ノ製造證明書ヲ提出スヘシ（同上本項追加）

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年勅令第二百四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○輸出菓子糖果原料砂糖戻税法臺灣ニ施行ノ件

（明治四十四年七月勅令第百九十六號）

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

○砂糖消費税織物消費税等ノ徴收ニ關スル法律

（明治四十四年三月二十九日法律第四十五號）

第一條　砂糖消費税法、織物消費税法、〔石油消費税法〕又ハ骨牌税法ニ於テ税關、保税倉庫トアルハ關税法ニ於テ稱スル保税地域ヲ謂フ

第二條　關税法第三十九條ノ規定ニ依ル運送ハ砂糖消費税法、織物消費税法、〔石油消費税法〕又ハ骨牌税法ノ引取ト看做サス但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條　砂糖消費税法、織物消費税法、〔石油消費税法〕又ハ骨牌税法ニ依リ税金ヲ徴收スル場合ノ外砂糖、糖蜜、糖水、織物、〔石油〕又ハ骨牌ニ付關税ヲ徴收スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ關税納付義務者ヨリ其ノ税金ヲ徴收ス但シ骨牌税法ニ依リ骨牌ヲ沒收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第百八十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

○砂糖消費税織物消費税等ノ徴收ニ關スル件

（明治四十四年六月十六日勅令第百八十六號）

改正　大正九年十二月二十八日勅令第五百九十號

第一條　砂糖消費税法施行規則、織物消費税法施行規則又ハ石油消費税法施行規則ニ於テ税關又ハ保税倉庫トアルハ關税法ニ於テ稱スル保税地域ヲ謂フ

第二條　明治四十四年法律第四十五號第三條ノ規定ニ依リ徴收スル税金ハ關税ヲ徴收スルトキ税關之ヲ徴收ス

骨牌税金ノ徴收ニ付テハ骨牌税法第五條ノ規定ヲ適用セス

第三條　關税法ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水、織物、〔石油〕又ハ骨牌ヲ運送セムトスルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ種別及數量、織物ノ價格又ハ〔石油〕、骨牌ノ數量ヲ記載シタル書面ヲ税關ニ提出ヘスシ但シ關税法ニ依リ提出スヘキ運送申告書ニ依リ明瞭ナル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル（大正九年勅令第五百九十號本條改正）

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ税關ニ提出スヘシ

登録國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登録ヲ受ケ其ノ登録濟通知書ヲ税關ニ提出スヘシ乙種國債登録簿ニ登録シタルモノニ在リテハ尚記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第五條　（大正九年勅令第五百九十號削除）

第六條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ貨物運送先ニ到達シタルトキ、税金納付濟ニ至リタルトキ又ハ税金納付ノ義務ナキニ至リタルトキハ税關ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ徴收スヘキ税金ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ之ニ充ツ（大正九年勅令第五百九十號改正）

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ（大正九年勅令第五百九十號改正）

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五百九十號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ税關ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

○明治四十四年法律第四十五號ヲ臺灣ニ施行ノ件

（明治四十四年六月二十八日勅令第百八十九號）

明治四十四年法律第四十五號ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

織物税

明治四十四年法律第四十五號ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

○明治四十四年法律第四十五號ヲ臺灣ニ施行ノ件

（明治四十四年六月二十八日勅令第百八十九號）

[illegible]

本令施行[illegible]

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ[illegible]アルトキハ之ヲ還付ス

前項ノ場合ニ於テ[illegible]トキハ之ヲ公賣ニ付シ[illegible]費用及税金ニ充ツ

第七條　[illegible]ヲ[illegible]タル場合ニ於テ[illegible]税金ヲ納付セサルトキハ[illegible]物ヲ以テ之ニ充ツ

又ハ税金[illegible]ノ[illegible]キニ至リタルトキハ[illegible]付ノ手續ヲ為スヘシ

第六條　[illegible]タル場合ニ於テ[illegible]トキハ税金納付[illegible]

第五條　[illegible]

◎織物稅

○織物消費稅法（明治四十三年三月二十五日法律第七號）

改正　大正八年三月三十一日法律第三十三號
大正十一年三月二十八日法律第十七號
大正十五年三月二十七日法律第二十二號

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（大正十五年法律第二十二號但書追加）

第一條ノ二　本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬糸、金屬線、金屬箔、漆糸又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ
絹紡紬糸、芭蕉糸其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス（大正十五年法律第二十二號本條追加）

第二條　消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條　左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス
一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物
二　製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物
消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費稅額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條　消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條　消費稅ヲ納付シ又ハ消費額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條　左ニ揭クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ヲ引取ルコトヲ得

一　他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ

二　染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

三　一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條　消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戾入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條　第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ卽時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費稅ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十條　第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條　織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十二條　織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場ト

ヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條　收税官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入リ織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條　收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ檢査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴收ス但シ消費税四圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三　消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四　第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メタル場所ニ移入セサルトキ

五　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一　第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　織物製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四　收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用ヰス

第二十條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

第二十二條　政府ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得（大正八年法律第三十三號本條追加）

前項ノ組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得（大正十一年法律第十七號本項改正）

第二十三條　第十二條、第十四條乃至第十六條、第十八條第二號第四號及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ綿織物ニモ之ヲ適用ス（大正十五年法律第二十二號本條追加）

政府ニ申告セスシテ綿織物ヲ製造シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附　則（大正八年法律第三十三號）

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年法律第十七號）

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年法律第二十二號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ掲クル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二　本法施行前外國輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セスシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタルモノ

三　本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

四　本法施行前消費稅ヲ納付シテ外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

消費稅ヲ納付シタル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費稅法第三條第二項ノ規定ヲ適用セス

○織物消費稅法施行規則

（明治四十三年三月二十九日勅令第百八十五號）

改正　大正八年三月三十一日勅令第四十五號
大正十年十二月二十八日勅令第五百八十五號
大正十一年三月二十八日勅令第五十號
大正十一年三月三十一日勅令第百七十七號
大正十五年三月三十一日勅令第三十八號

第一條　本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條　織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ綿織物ニ付テハ組成原料（織物消費稅法第一條ノ二第一項ノ綿織物中綿ト綿以外ノ原料トヲ以テ組成スルモノ又ハ本令第三十一條第十四號ノ原料ノミヲ以テ組成スル織物ニ付テハ組成原料及其ノ重量割合）ヲ併セ申告スヘシ（大正十五年勅令第三十八號但書追加）

第三條　販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第四條　製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ織物製造者ニ織物製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條　織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條　織物製造者期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　第二條若ハ前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條　織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條　織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セ

ラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄税務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄税務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄税務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費税ヲ納付シタルコトノ證憑ヲ具シ輸出港税關ニ、其郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄税務署ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港税關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄税務署ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費税ノ免除ヲ得ムトスルトキハ其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證憑ヲ具シ之ヲ所轄税務署ニ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ消費税ノ免除ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條　織物製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル場合ニ於テハ所轄税務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　織物消費税法第七條ノ規定ニ依リ織物ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ旨所轄税務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　織物消費税法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ハ所轄税務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　織物消費税法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄税務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十七條　織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫着シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十八條　消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納税濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄税務署ハ織物又ハ織物ニ縫着シタル紙片ニ納税濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼用シ又ハ納税濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納税濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄税務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納税濟證印ノ押捺又ハ納税濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　日本銀行ノ本店、支店若ハ代理店ノ所在地外又ハ日本銀行營業時間後ニ於テハ收税官吏

ハ消費税金ノ領收ヲ爲スコトヲ得（大正十一年勅令第百七十七號改正）

第二十條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル（大正九年勅令第五百八十五號本條改正）

金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第二十一條（同上削除）

第二十二條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所轄税務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス（同上改正）

第二十四條　織物製造者又ハ織物消費税法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル種類、數量及製造ノ日

四　他ニ引渡シタル種類、數量、價格、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條　織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル種類、數量、價格、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル種類、數量、價格、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十六條　本令ニ依リ所轄税務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル收税官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ税務署ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十七條　收税官吏ハ織物ノ製造者、織物消費税法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條　本令中税務署ニ屬スル事務ハ税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ税關之ヲ行フ

第二十九條　織物消費税法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ税務署長ハ織物組合ニ對シ徵税上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得（大正八年勅令第百四十五號本條追加）

前項ノ織物組合ニ對シテハ左ノ二期ニ分チ每期間內ニ於テ其ノ取扱ヒタル織物中消費税ヲ賦課シ

タル織物ノ課稅價額ノ千分ノ一ニ相當スル金額及其ノ點數每五百點ニ付一圓ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付金ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五百點未滿ノ端數アルトキハ之ヲ五百點トシテ計算ス（大正十一年勅令第五十號本項改正）

前期　其ノ年四月ヨリ同九月迄

後期　其ノ年十月ヨリ翌年三月迄

前項ノ規定ニ依ル點數ノ計算方法ニ付テハ幅及長サノ長短ニ拘ラス一個又ハ一續ノ織物ニシテ之ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルモノヲ一點トス但シ數個又ハ數續ノ織物ヲ一括シ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ一括每ニ之ヲ一點トス（同上）

織物組合カ一集合査定場ニ於テ一年度間每月少クトモ六回以上織物消費稅査定ノ爲査定場ノ開設ヲ爲シタル場合ニ於テ當該査定場ノ取扱ニ係ル織物ニ付第二項ノ規定ニ依リ計算シタル一年度ノ交付金額カ百圓ニ滿タサルトキハ該査定場ニ對スル後期交付金トシテ前期交付金ト合シテ百圓ニ滿ツル迄ノ金額ヲ交付ス（同上）

第三十條　前條ノ織物組合同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得（大正八年勅令第四十五號追加）

第三十一條　左ニ揭クル原料ノミヲ以テ組成スル織物ハ織物消費稅法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ綿織物ト看做ス（大正十五年勅令第三十八號追加）

一　英式番手二十八號ヲ超エサル絹紡紬糸
二　芭蕉糸
三　黃麻
四　葛
五　藤
六　槿
七　楮
八　鳳梨
九　科
十　竹
十一　紙
十二　襤褸
十三　前各號ノ一種又ハ數種ト綿
十四　前各號ノ一種又ハ數種ト全重量百分中五未滿ノ毛又ハ黃麻以外ノ麻

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附　則（大正八年勅令第四十五號）

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之レヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第五百八十五號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

附　則（大正十一年勅令第五十號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第百七十七號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年勅令第三十八號）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ綿織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以內ニ組成原料（織物消費稅法第一條ノ二第一項ノ綿織物中綿ト綿以外ノ原料トヲ以テ組成スルモノ又ハ本令第三十一條第十四號ノ原料ノミヲ以テ組成スル織物ニ付テハ組成原料及其ノ重量割合）ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

14 38

取引所稅

◎取引所税

○取引所税法（大正三年三月三十一日法律第二十三號）

改正　大正十一年四月二十日法律第六十一號

第一條 取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業税ヲ課ス

第二條 取引所ハ毎月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第三條 取引所營業税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所營業税ヲ課セス

第五條 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シ得ルモノニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ税率ニ依リ取引税ヲ課ス

第一種　地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲　七日以內ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ　萬分ノ〇・六

乙　其ノ他ノモノ　萬分ノ一

第二種　有價證券ノ賣買取引

甲　七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ　萬分ノ一・五

乙　其ノ他ノモノ　萬分ノ二・五

第三種　商品ノ賣買取引　萬分ノ二・五

賣買ヲ解約スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス(大正十一年法律第六十一號改正)

第六條　(同上削除)

第七條　國債證券ノ賣買取引ニハ取引税ヲ課セス(同上改正)

第八條　取引所ノ取引員又ハ會員ハ取引税ヲ課セラルヘキ毎月分ノ賣買取引ノ賣買各約定金高ヲ種別及其ノ區分毎ニ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ付シ前項ノ期間内ニ之ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲取引員又ハ會員ハ第一項ノ期日前相當ノ期間内ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス(同上)

第九條　取引所ノ取引員又ハ會員ハ毎月分ノ税金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ(同上)

第十條　政府ハ取引税ノ納税告知書ヲ取引所ニ交付シ取引所ハ之ヲ其ノ取引員又ハ會員ニ送達スヘシ此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時ヲ以テ其ノ取引員又ハ會員ニ送達アリタルモノト看做ス

取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ納付スヘキ税金ヲ取纏メ前條ノ納期内ニ之ヲ政府ニ送付スヘシ(同上)

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル税金ヲ送付セサルトキハ國税徵收法ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第十一條　取引所ノ取引員又ハ會員カ廢業脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課税標準額ノ申告及取引税ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ規定ハ取引所ノ廢業シタル場合ニ於テ取引税ニ付之ヲ準用ス

第十二條　取引所ハ其ノ取引員又ハ會員ノ取引税ノ納付ニ付保證ノ責ニ任ス

取引所ノ取引員又ハ會員納期内ニ取引税ヲ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)

第十三條　取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

取引所ノ取引員又ハ會員ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(同上)

第十四條　收税官吏ハ取引所、取引所ノ取引員又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(同上)

第十五條　取引所第二條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第十六條　取引所ノ取引員又ハ會員第八條又ハ第十一條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脱税シタルトキハ脱税高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ

14
38

其ノ税金ヲ徵收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス（同上）

第十七條　取引所法第二十五條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ取引税ニ關シテハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲シテ脫税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス（同上）

第十七條ノ二　取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ第五條ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ付差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シタルトキハ取引物件ノ種別ニ從ヒ其ノ最高税率ノ取引税ヲ課セラルヘキ賣買取引ヲ爲シテ脫税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

前項ノ場合ニ於ケル税額ハ賣買各約定金高ニ依リ計算ス（同上ヲ以テ追加）

第十八條　取引所ノ取引員又ハ會員ノ爲シタル第八條又ハ第十一條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫税スルニ至ラシメタルトキハ脫税高五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス（同上）

第十九條　取引所又ハ取引所ノ取引員若ハ會員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス（同上）

一　取引所第八條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二　賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三　收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第二十條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第二十一條　取引所ノ取引員又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ取引員又ハ會員ヲ處罰ス（同上）

第二十二條　北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ取引所營業税ニ對シ本税百分ノ十以內ノ附加税ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租税其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ規定ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

本法施行前ノ賣買取引ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ取引所税ヲ徵收ス

本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手數料ニシテ本法施行後ニ收入スルモノハ取引所營業税ノ課税標準額ニ算入セス

明治三十九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

14 38

附　則（大正十一年法律第六十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年八月二十三日勅令第三百八十九號ヲ以テ大正十一年九月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

○取引所稅法施行規則

（大正三年七月六日大藏省令第十三號）

改正　大正十一年八月二十三日省令第五十一號

第一條　取引所設立ノ免許ヲ受ケタルトキハ定款及業務規程ヲ添ヘ免許ノ年月日ヲ十日以内ニ所轄稅務署ニ屆出ツヘシ定款若ハ業務規程變更ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ變更ヲ命セラレタルトキ亦同シ（大正十一年省令第五十一號改正）

取引所免許繼續ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ屆出ツヘシ

第二條　取引所開業シタルトキハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ廢業シタルトキ亦同シ

第三條　取引所ハ取引所稅法第二條ニ依ル取引所營業稅課稅標準額申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條ノ一　支所ヲ設クル取引所ニ在リテハ前三條ニ依ル屆出又ハ申告ハ本支所各別ニ其ノ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ（大正十一年省令第五十一號追加）

第四條　取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタル者又ハ取引所ノ會員ト爲リタル者ハ其ノ住所、氏名又ハ名稱、營業所、所屬取引所及免許ヲ受ケ又ハ會員ト爲リタル年月日ヲ直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ屆出ツヘシ

取引所ノ取引員又ハ會員カ廢業、脫退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨直ニ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ申告スヘシ但シ死亡又ハ解散シタルトキハ所屬取引所ヨリ其ノ申告ヲ爲スヘシ（大正十一年省令第五十一號改正）

第五條　取引所稅法第八條ニ依ル取引稅課稅標準額申告書ハ所屬取引所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ（大正十一年省令第五十一號改正）

附　則

本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開業セル取引所及現ニ仲買人又ハ會員タル者ハ本令施行後二十日以内ニ第一條又ハ第四條ノ屆出ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前免許ヲ受ケタル取引所ニシテ取引所令附則第三項ノ規定ニ依リ業務規程ノ認可ヲ受ケタルトキハ認可後五日以内ニ業務規程ヲ添ヘ所轄稅務署ニ之ヲ屆出ツヘシ

本令施行前所轄税務署ニ爲シタル仲買人ノ免許ニ關スル屆出ハ本令ニ依リ爲シタル取引員ノ免許ニ關スル屆出ト看做ス

○取引所法（抄錄）（明治二十六年三月四日法律第五號）

第一章　取引所ノ設立

第一條　賣買取引ノ繁盛ナル地區內ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條　同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條　取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第四條　株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區內ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二　有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二章　取引所ノ組織

第五條　取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條　會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條　取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得取引所ノ責任ハ其ノ財産ニ限ルモノトス

第八條　取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得第二十二條ノ規定ニ依リ賠償ノ責ニ任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ物件又ハ銘柄ノ一部ニ付賠償ノ責ニ任セサル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條　取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條ノ四　會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除クノ外支店出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス二以上ノ場合ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲ス事ヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條　取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキハ免許料ヲ納ムヘシ免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ム

第十四條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以內ノ過怠金ヲ科シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍內ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許カ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脫退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手數料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所之ニ一箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條ノ二 差金取引ヲ爲ス取引所類似施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リテ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取引所ノ解散
二　取引所ノ停止
三　取引所一部ノ停止若ハ禁止
四　役員ノ解職
五　會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名

14
38

第二十八條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財產其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第三十二條　第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者

二　取引所ニ於ケル相場ヲ僞リテ公示シタル者

三　公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛僞ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

四　免許ヲ受ケスシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條ノ五　取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十二條ノ六　會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

○取引所令（抄錄）（大正十一年七月三十一日勅令第三百五十三號）

第八條　賣買取引ノ期限ハ棉花、綿絲又ハ綿布ニ在リテハ十二箇月、靑豌豆、鶉豆又ハ馬鈴薯澱粉ニ在リテハ六箇月、大豆粕ニ在リテハ五箇月、小麥、大豆、小豆又ハ鰊肥料ニ在リテハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　賣買取引ハ實物市場ニ於ケル賣買取引及清算市場ニ於ケル賣買取引ノ二種トス

第十條　實物市場ニ於ケル賣買取引ニ在リテハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　有價證券ノ清算市場ニ於ケル賣買取引ニシテ七日以內ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノニ限リ受渡其ノ他ノ決濟ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ賣買成立ノ日ヨリ一箇月以內之カ繰延ヲ爲スコトヲ得

第十五條　清算市場ニ於ケル賣買取引ノ單位ハ業務規程ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ單位ハ米ニ付テハ百石、株式ニ付テハ十株ヲ下ルコトヲ得ス但シ米ニ付テノ單位ニ關シテハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニ限リ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

取引所實物市場ニ於ケル賣買取引ノ單位ヲ定メムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　受渡其ノ他ノ決濟及其ノ繰延ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

受渡其ノ他ノ決濟及其ノ繰延ニ關スル事務ハ取引所自ラ之ヲ行フヘシ

受渡場所ハ業務規程ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○取引所法施行規則（抄錄）（大正三年六月二十九日農商務省令第十六號）

第十六條　取引所法第二十五條第二項ニ依ル處分ハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　賣買成立ノ値段ヲ以テ公定相場トス

取引所ハ公定相場及其ノ平均値段ヲ毎日市場ニ公示スヘシ

取引所ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ公定相場ノ一部ヲ公示セサルコトヲ得

一　相場表

二　賣買表

三　毎期ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告書

四　毎期末日現在株主及其ノ持株

五　毎期末日現在取引員又ハ會員表

前項第一號及第三號ノ書類ハ實物市場ニ於ケル賣買取引及七日以內ノ期限ヲ以テ履行ト爲ス清算市場ニ於ケル賣買取引ニ付テハ毎月末日其ノ他ノ賣買取引ニ付テ毎受渡期日之ヲ作成スヘシ

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ取引所ハ遲滯ナク其ノ事項ヲ商工大臣ニ報告スヘシ

十　會員又ハ取引員カ國稅徵收法ニ依リ滯納處分ヲ受ケタルトキ若ハ間接國稅犯則者處分法ニ依リ處分ヲ受ケタルトキ

14
38

印紙税

14
38

◎印紙稅

○印紙稅法（明治三十二年三月十日法律第五十四號）

改正 明治三十四年四月四日法律第十六號
同 四十年三月二十九日法律第二十七號
同 四十二年五月十七日法律第四十二號
同 四十三年三月二十五日法律第十四號
同 四十四年三月二十八日法律第四十一號
大正十一年四月十八日法律第四十七號
同 十二年三月二十七日法律第十二號
同 十四年三月三十日法律第二十二號

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通每ニ其ノ記載金高十圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額百圓ヲ超ユルトキハ百圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス（大正十二年法律第十二號本項改正）

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條　（明治三十四年法律第十六號削除）（明治四十年法律第二十七號追加）（明治四十二年法律第四十二號改正）（大正十二年法律第十二號削除）

第四條　左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ、帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ（明治四十三年法律第十四號本條約率改正）

一　貯金通帳、積金通帳及積金證書（貯蓄銀行法第一條ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル）（大正十二年法律第十二號追加）
二　產業組合ノ發スル貯金通帳（同上）
三　產業組合又ハ住宅組合ノ發スル出資證券（同上）
四　農業倉庫證券（同上）

一錢

五　委任狀
六　約束手形（明治三十四年法律第十六號追加）（明治四十年法律第二十七號削除）（大正十二年法律第十二號追加）
七　爲替手形（明治三十四年法律第十六號追加）
八　銀行預金證書
九　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書（大正十二年法律第十二號追加）
十　產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル出資證券（大正十二年法律第十二號追加）（大正十四年法律第二十二號改正）

二錢

十一　船荷證券
十二　運送貨物引換證
十三　倉庫證券（大正十二年法律第十二號改正）
十四　保險證券
十五　株　券
十六　債　券
十七　相互保險會社ノ發スル基金證券（大正十二年法律第十二號追加）
十八　株式申込證
十九　社債申込證（大正十二年法律第十二號追加）
二十　地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書（同上改正）
二十一　使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書（同上改正）
二十二　信託行爲ニ關スル證書（大正十一年法律第四十七號追加）
二十三　無盡ニ關スル證書（大正十二年法律第十二號追加）
二十四　定款又ハ組合契約書
二十五　權利ノ變更ニ關スル證書
二十六　追認又ハ承認ニ關スル證書（大正十二年法律第十二號改正）
二十七　物品切手

三錢

二十八　賣買仕切書
二十九　物品又ハ有價證劵ノ賣買ニ關スル證書（大正十二年法律第十二號追加）
三十　送狀
三十一　受取書
三十二　金高記載ナキ證書
三十三　擔保品差入證書及擔保品預證書（大正十二年法律第十二號改正）
三十四　通帳
三十五　判取帳

二十五錢

第五條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
一　官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
二　官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
三　國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
四　慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳若ハ公署ニ提出スル證書（大正十二年法律第十二號改正）
五　小切手
六　產業組合、產業組合聯合會又ハ住宅組合ノ發スル出資證劵ニシテ其ノ記載高十圓未滿ノモノ又ハ金高記載ナキモノ（大正十二年法律第十二年追加）
七　記載金高十圓未滿ノ約束手形及爲替手形（同上改正）
八　記載金高十圓未滿ノ積金證書及銀行預金證書（同上追加）
九　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ（同上追加）
十　記載金高一圓未滿ノ物品切手（明治四十三年法律第十四年追加）
十一　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書（明治四十四年法律第四十一號改正）（大正十二年法律第十二號改正）
十二　物品又ハ有價證劵ノ賣買ニ關スル證書ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ又ハ金高記載ナキモノ（大正十二年法律第十二號追加）
十三　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀（明治四十四年法律第四十一號改正）（大正十二年法律第十二號改正）
十四　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書（明治四十四年法律第四十一號改正）（大正十二年法律第十二號改正）
十五　主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書（大正十二年法律第十二號改正）
十六　手形及證劵ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書（同上）
十七　株劵又ハ債劵ニ記載シタル讓渡ノ證明書（同上）
十八　手形ノ引受及保證（同上）
十九　手形又ハ證劵ノ拒絕證書（同上）
二十　手形又ハ證劵ノ複本及謄本（同上）

第六條　印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得（明治三十四年法律第十六號改正）

第七條　一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條　證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十一條　證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ證書、帳簿一箇每ニ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額三圓ニ達セサルトキハ三圓ノ科料ニ處ス（大正十二年法律第十二號改正）

第十二條　第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上ノ科料ニ處ス（明治四十三年法律第十四號改正）

第十三條　第九條ニ違背シタル者ハ證書、帳簿一箇每ニ二圓ノ科料ニ處ス（大正十二年法律第十二號改正）

第十四條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法中犯罪ノ不成立、刑ノ減免、併合罪及酌量減輕ノ例ヲ用キス但シ第十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス（大正十二年法律第十二號改正）

第十四條ノ二　證書、帳簿ノ作成名義人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人等カ名義人ノ爲ニ作成スル證書、帳簿ニ關シ本法ニ違反シ之ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ名義人ヲ處罰ス（大正十二年法律第十二號追加）

附　則

第十五條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

附　則（明治四十年法律第二十七號）

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十三年法律第十四號）

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中印紙稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十四年法律第四十一號）

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年法律第四十七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（未施行ノ儘大正十二年法律第十二號改正）

附　則（大正十二年法律第十二號）

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年八月二十八日勅令第二百六十八號ヲ以テ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス）

○保管金規則（抄錄）（明治二十三年一月七日法律第一號）

第四條　保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○國稅徵收法（抄錄）（明治三十年三月二十九日法律第二十一號）

第二十二條　第二項

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

○郵便爲替法（抄錄）（明治三十三年三月十三日法律第五十五號）

第六條　郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

○間接國稅犯則者處分法（抄錄）（明治三十三年三月十七日法律第六十七號）

第七條　第二項

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

○貯蓄債券法（抄錄）（明治三十七年四月一日法律第十八號）

第六條　貯蓄債券及其ノ引換證ニハ印紙稅ヲ免除ス

○郵便貯金法（抄錄）（明治三十八年二月十六日法律第二十三號）

第十七條　郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

○簡易生命保險法（抄錄）（大正五年七月十日法律第四十二號）

第三十二條　簡易生命保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

○健康保險法（抄錄）（大正十一年四月二十二日法律第七十號）

第六條　健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

○產業組合中央金庫法（抄錄）（大正十二年四月六日法律第四十二號）

第八條　第二項

登錄稅法及印紙稅法中產業組合聯合會ニ關スル規定ハ產業組合中央金庫ニ之ヲ準用ス

14
38

○復興貯蓄債券法（抄錄）（大正十三年七月二十二日法律第十五號）

第六條　復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ課セス

○郵便年金法（抄錄）（大正十五年三月三十日法律第三十九號）

第二十一條　郵便年金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

○稅印押捺請求方ニ關スル件（明治三十二年三月十一日大藏省令第五號）

改正　明治三十四年八月三日大藏省令第十六號
同　三十五年一月六日同　第二十八號
同　三十六年二月十二日同　第五號
同　三十六年四月九日同　第十一號
同　三十六年五月二十五日同　第十三號
同　三十六年七月二十一日同　第二十號
同　三十六年九月十四日同　第二十二號
同　三十六年十一月二日同　第三十一號
同　三十七年六月六日同　第二十三號
同　四十二年十月二十三日同　第五十號
大正　二年六月十三日同　第十五號
同　十一年三月一日同　第十七號
同　十五年十一月九日同　第四十六號（大正十六年一月一日ヨリ施行）

印紙稅法第六條ニ依リ稅印ノ押捺ヲ求メムトスル者ハ適宜ノ稅務署ニ申出稅金ヲ納付シ其ノ領收書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添ヘ用紙ト共ニ請求書ヲ札幌、東京、大阪、名古屋、仙臺、廣島、熊本各稅務監督局又ハ函館、小樽、上京、橫濱、神戶、長崎、金澤、前橋、川越、宇都宮、甲府、大津、靜岡、濱松、姬路、岡山、佐賀、長野、新潟、足利、四日市、(三重縣)津、岐阜、盛岡、福島、青森、秋田、山形、酒田、米澤、福井、富山、高岡、尾道、下關、松江、高松、德島、高知、松山、福岡、小倉、大分、鹿兒島稅務署ニ提出スヘシ

稅印押捺請求者ハ口頭ヲ以テ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

稅印押捺請求者用紙返送ニ要スル郵便料金ニ相當スル郵便切手ヲ併セ提出スルトキハ稅務監督局又ハ稅務署ハ稅印押捺ノ上郵便ヲ以テ用紙ノ返送ヲ爲スヘシ

○稅印押捺請求書記載方ノ件（明治三十四年五月十四日大藏省告示第二十一號）

明治三十二年省令第五號ニ據リ提出スル稅印押捺請求書ニハ其ノ證書用紙ノ價格ヲ記載ス可シ

○稅印押捺用紙損傷又ハ汚染ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件（明治三十九年九月二十日大藏省令第四十一號）

印紙稅法第六條ニ依リ稅印押捺ヲ受ケタル用紙ニシテ證書又ハ帳簿調製完了前損傷又ハ汚染シタルモノアルトキハ一口十枚以上ニ限リ代用紙ヲ提出シテ更ニ稅印ノ押捺ヲ請求スルコトヲ得但シ損傷又ハ汚染用紙ノ稅印ノ抹消ヲ受クヘシ

14
38

骨牌税

○印紙模造取締規則（大正五年七月二十日大藏省令第十八號）

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉骨牌税

○骨牌稅法（明治三十五年四月五日法律第四十四號）

改正　大正十五年三月二十七日法律第二十號

第一條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ
前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所每ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所每ニ之ヲ受クヘシ

第二條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ
收稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條　（大正十五年法律第二十號削除）

第四條　骨牌ニハ一組每ニ麻雀ニ在リテハ三圓、其ノ他ニ在リテハ五十錢ノ稅ヲ課ス（大正十五年法律第二十號改正）

第五條　骨牌稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間內又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組每ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條　貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲サヽル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲サヽル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲サヽル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲サヽル骨牌ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條、第九條、第十條、第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條 (大正十五年法律第二十號削除)

第十四條 免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十五條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脫稅高二十倍ノ金額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲サヽル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲サヽル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ〔不論罪〕及減輕、〔再犯加重、數罪俱發〕ノ例ヲ用キス但シ〔刑法第七十五條第一項〕ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條 本法ハ伊呂波加留多、歌留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

第二十一條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル骨牌ハ本法ト同一又ハ之ヨリ高キ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ骨牌ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(大正十五年法律第二十號本條追加)

附　則

第二十二條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

14
38

第二十三條　本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條　本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以内ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條　（大正十五年法律第二十號削除）

附　則　（大正十五年法律第二十號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ大正十五年分以前ノ免許料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ニハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條ノ改正規定ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ又ハ不足印紙ヲ增貼スヘシ

〇骨牌稅法施行規則　（明治三十五年五月二十三日勅令第百五十四號）

改正　大正七年九月二十六日勅令第三百五十九號
同　十五年三月三十一日勅令第三十六號

14 38

第一條　骨牌ヲ製造セムトスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨新居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條　骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四條　骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第五條　骨牌ノ包裹ニ貼用スヘキ印紙ハ收入印紙トス（大正七年勅令第三百五十九號追加）（大正十五年勅令第三十六號條名改正）

14
38

第六條　骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第七條　骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日

四　貼用シタル印紙ノ金額

五　他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第八條　骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先

二　貼用シタル印紙ノ金額

三　販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條　骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以內ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裹ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條　見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條　骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條　骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十五條　本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第十七條　前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條　骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條　明治三十五年ニ限リ免許料ハ七月中ニ之ヲ納ムヘシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

附　則（大正七年勅令第三百五十九號）

本令ハ大正七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第百五十五號（註、骨牌ニ貼用スヘキ印紙ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス但シ當分ノ內收入印紙ニ代ヘ骨牌印紙ヲ使用スルコトヲ得

附　則（大正十五年勅令第三十六號）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

14 38

狩獵稅

◉狩　獵　税

○狩獵法（抄錄）　（大正七年四月四日法律第三十二號）

改正　大正十一年四月二十八日法律第七十四號

第三條　狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、黐繩、鋏、鉤又ハ畏ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有效期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

（第四項略）

前二項ノ期間內ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ（大正十一年法律第七十四號改正）

一等　所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　五十圓

二等　所得税ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　三十圓
三等　一等及二等以外ノ者　十五圓
前項ノ免許税ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附　則

第二十七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年八月十六日勅令第三百八十二號ヲ以テ大正八年九月一日ヨリ施行）

〇狩獵法施行規則（抄錄）（大正八年八月十六日農商務省令第二十八號）

第六條　狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ

附　則

第三十八條　本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸入税免除拂戻

14 38

◉輸入稅免除拂戻

○關稅定率法（抄錄）（明治四十三年四月十四日法律第五十四號）

改正　大正十年四月二十一日法律第七十八號
同　十五年三月二十九日法律第三十六號

第九條　輸入原料品ニシテ命令ヲ以テ指定シタル輸出品ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得（大正十年法律第七十八號本條改正）

輸入原料品ニシテ茶鉛厚〇・一七ミリメートルヲ超エサル亞鉛薄板又ハ命令ヲ以テ指定シタル油又ハ油糟ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得（大正十五年法律第三十六號本項改正）

前二項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

詐欺其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第一項又ハ第二項ノ拂戻ヲ受ケムトシタル者ハ關稅法第七十五條ノ例ニ依リ處分ス

○關稅法（抄錄）（明治三十二年三月十四日法律第六十一號）

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件（大正十年五月三十日勅令第二百三十八號）

改正　大正十一年三月三十日勅令第七十七號
同　十四年十月一日勅令第二百九二十號
同　十五年四月二日勅令第五十五號

第一條 關稅定率法第九條第一項ノ規定ニ依リ製造品竝輸入原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除又ハ拂戾ノ率ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種

製造品	輸入原料品	拂戾率
一 硝子鏡	無色平面ノ硝子板（厚四ミリメートルヲ超エサルモノヲ除ク） イ 千平方センチメートルヲ超エサルモノ	使用原料ニ付毎百平方メートル　七十六圓五十錢
	ロ 其ノ他	使用原料ニ付毎百平方メートル　百八十五圓
二 掛時計又ハ置時計	金屬ヲ鍍セサル鐵線	製造品中ノ構成量ニ付　納付シタル輸入稅ノ全部
	鋼リボン	製造品中ノ構成量ニ付　納付シタル輸入稅ノ全部
	時計用樂器	毎一箇　二十五錢
三 飲食物罐詰	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤　七十錢
四 木箱用金具	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤　七十錢
五 葉鐵製ノ罐、箱、玩具、鈕釦、卷煙草入若ハ石鹼入又ハ葉鐵ヲ用ヰタル鏡	葉鐵	製造品中ノ構成量毎百斤　七十錢
六 罐入礦油又ハ罐入酒精	葉鐵	五ガロン罐毎一個　二錢五厘
七 平紐、丸紐又ハ總類	金屬入織絲又ハ鍍金銀シタル金屬線	製造品中ノ構成量ニ付　納付シタル輸入稅ノ全部
八 人造絹製品	人造絹	製造品中ノ構成量・百二十五圓

毎百斤

九　衣　服

毛織物又ハ毛綿交織物（天鵞絨、プラシュ其ノ他ノパイル織物ヲ除ク）

イ　一平方メートルノ重量百グラムヲ超エ二百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　五十二圓五十錢

ロ　一平方メートルノ重量五百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　六十圓四十錢

ハ　一平方メートルノ重量五百グラムヲ超エタルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　三十二圓六十錢

十　洋　傘

關稅定率法別表第二百九十八號ノ八ノ丙又ハ九ノ丙ニ屬スル染色又ハ捺染シタル綿織物

百平方メートルニ付二十キログラムヲ超エサルモノニシテ五ミリメートル平方内ニ於ケル經緯ノ絲數

イ　二十七ヲ超エ三十五ヲ超エサルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　十八圓三十錢

ロ　三十五ヲ超エ四十三ヲ超エサルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　二十二圓

ハ　四十三ヲ超エタルモノ　毎百斤　製造品中ノ構成量　四十七圓

金屬ヲ鍍セサル鋼線　毎百斤　製造品中ノ構成量ニ付　納付シタル輸入稅ノ全部

十一　硝子器　曹達灰　硝子器毎百斤　八錢四厘

十二　硝子板

イ　厚四ミリメートルヲ超エサルモノ　曹達灰　硝子板毎百平方メートル　四十五錢

ロ　其ノ他　曹達灰　硝子板毎百平方メートル　七十五錢

十三 琺瑯鐵器	金屬ヲ鍍セサル鐵板（全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク）厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ	使用原料ニ付毎百斤	一圓九十五錢
	酸化コバルト	琺瑯鐵器 イ 片面以上紺色ノモノ毎百斤	四十九錢
		ロ 其ノ他毎百斤	十一錢
	曹達灰	琺瑯鐵品毎百斤	一錢
十四 罎入麦酒	曹達灰	大罎（三合以上入ノモノ）毎百打	七十九錢
		小罎（三合未滿入ノモノ）毎百打	五十一錢
十五 オルガン	オルガンリード	製造品中ノ構成量	二十八圓

十六 鑄鐵管	銑鐵	鑄鐵管毎百斤	十錢
十七 アルミニウムノ條、竿、板、線若ハ撚合線（鋼心ノ有無ヲ問ハス）又ハ其ノ製品	アルミニウムノ塊、錠、粒、條、竿、板又ハ線	製造品中ノ構成量毎百斤	三圓二十錢
十八 自動車又ハ自動自轉車用インナーチユーブ	金屬製ヴアルヴ	每一箇	納付シタル輸入税ノ全部
十九 花梨木、鐵刀木、黄楊木、紅木、紫檀又ハ黒檀（縞黒檀ヲ除ク）ノ製	花梨木、鐵刀木、黄楊木、紅木、紫檀又ハ黒檀（縞黒檀ヲ除ク）	使用原料ニ付	納付シタル輸入税ノ全部

14,
380

品

第二種

製造品	輸入原料品		免除率
一　精製糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ（骨炭濾過又ハ稅務官署ノ承認シタル之ニ代ルヘキ方法ニ依リタルモノニ限ル）	砂糖	イ　和蘭標本色相第十一號未滿ノモノ	每百斤　二圓五十錢
		ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ	每百斤　三圓十錢
		ハ　和蘭標本色相第十八號未滿ノモノ	每百斤　三圓三十五錢
二　氷砂糖	砂糖	イ　和蘭標本色相第十一號未滿ノモノ	每百斤　一圓九十錢
		ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ	每百斤　二圓四十錢
		ハ　和蘭標本色相第十八號未滿ノモノ	每百斤　二圓六十錢
		ニ　和蘭標本色相第二十一號未滿ノモノ	每百斤　三圓三十錢
		ホ　和蘭標本色相第二十一號以上ノモノ	每百斤　三圓六十錢
三　胡麻子油	胡麻子		每百斤　三十九錢
四　荏胡麻子油	荏胡麻子		每百斤　三十九錢
五　菜子油又ハ芥子油	菜子又ハ芥子		每百斤　四十錢
六　小麥粉（末粉ヲ含ム）	小麥		每百斤　一圓五十錢

七	麥酒	麥芽	毎百斤	二圓七十錢
八	醋酸	醋酸石灰	毎百斤	四十一錢
九	硫化染料	石炭酸	毎百斤	十五圓七十錢
		クロールベンゾール又ハダイナイトロクロールベンゾール	從價	三割五分
十	銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、撚合線、筒又ハ管	銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		銅ノ屑又ハ故（改造用ノミニ適スルモノ）	毎百斤	七圓
十一	眞鍮又ハ青銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、撚合線、筒又ハ管	銅、眞鍮又ハ青銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		銅、眞鍮又ハ青銅ノ屑又ハ故（改造用ノミニ適スルモノ）	毎百斤	七圓
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十二	鉛ノ板又ハ管	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十三	絶縁電線	銅ノ塊又ハ錠	毎百斤	七圓
		鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十四	鉛白、鉛丹又ハリサージ	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
十五	亞鉛白（酸化亞鉛及硫化亞鉛）	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十六	白色ペイント	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十七	亞鉛鍍鐵板	金屬ヲ鍍セサル鐵板（全重量百分中硅素ノ重量一以上ノ硅素鋼板ヲ除ク）厚〇・七ミリメートルヲ超エサルモノ	毎百斤	一圓九十五錢
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十八	亞鉛鍍鐵線	鐵線	從價	一割八分
		亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤	三圓
十九	錫箔	錫ノ塊又ハ錠	毎百斤	三圓七十五錢
		鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤	四十錢

第二條　關稅定率法第九條第二項ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル原料品及之ニ對スル輸入稅ノ免除

率ヲ定ムルコト左ノ如シ

製造品	輸入原料品	免除率
一 茶鉛	鉛ノ塊又ハ錠	毎百斤 四十錢
二 厚〇・一七ミリメートルヲ超エサル亞鉛薄板	亞鉛ノ塊、錠又ハ粒	毎百斤 三圓
三 油 落花生油	落花生 イ 脱殼セルモノ	毎百斤 一圓二十五錢
	ロ 其ノ他	毎百斤 一圓八十錢
四 油糟 イ 大豆油糟	大豆	毎百斤 七十錢
ロ 胡麻子油糟	胡麻子	毎百斤 十一錢
ハ 荏胡麻子油糟	荏胡麻子	毎百斤 十一錢
ニ 菜子油糟又ハ芥子油糟	菜子又ハ芥子	毎百斤 四十五錢

第三條 前二條ニ掲クル製造品ノ製造ニハ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用スルコトヲ得ス但シ第一條第二種製造品及前條製造品ノ製造ニ付豫メ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前二條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ以テスル製造ハ稅務官署ノ承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

內國產原料品ヲ混淆使用セサル第一條第二種第一號ノ精製糖ハ同條第二種第二號ノ氷砂糖ノ製造ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ノ輸入申告者ヨリ輸入稅ヲ追徵ス但シ第四號及第五號ノ場合ニ於テ其ノ期間內ニ輸入原料品又ハ其ノ製造品カ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルコトニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 輸入原料品ヲ他ノ用途ニ供シタルトキ

二 前條第三項ノ場合ヲ除クノ外第一條ノ製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供シタルトキ

三 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 第一條第二種原料品輸入ノ日ヨリ左ノ期間內ニ製造品ヲ輸出セサルトキ

第一號及第二號ノ製造品ニ付テハ一年

第三號乃至第十九號ノ製造品ニ付テハ二年

五　第二條ノ原料品輸入ノ日ヨリ一年內ニ製造ヲ終ヘサルトキ

第五條　當該官吏ハ隨時製造場又ハ藏置場ニ就キ原料品、製造品、副產物、製造用器具機械又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　當該官吏ハ原料品、製造品、副產物、藏置場又ハ製造用器具機械ニ封印ヲ施シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百六十五號及同年勅令第二百六十六號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ明治三十九年勅令第二百六十五號第一條ノ製造品ヲ製造シ大正十一年五月三十一日迄ニ輸出シタル者ニハ仍同令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ肥料ヲ製造シタル者ニ對シテハ仍舊令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

附　則（大正十一年勅令第七十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年勅令第二百九十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ第一條第一種ノ製造品ヲ製造シテ本令施行後輸出シタル者ニ對シテモ仍本令ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

附　則（大正十五年勅令第五十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入シタル原料品ヲ用キテ第一條第一種ノ製造品ヲ製造シ本令施行後輸出シタルモノニ對シテハ仍從前ノ例ニ依リ輸入稅ノ拂戾ヲ爲ス

14,
380

○關稅定率法第九條施行ニ關スル件 （大正十年五月三十一日大藏省令第十八號）

改正　大正十四年十月一日省令第二十號
大正十五年四月二日省令第十八號

大正十年勅令第二百三十八號施行ニ關スル件

第一條　大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種原料品又ハ第二條ノ原料品ヲ用ヰテ製造ヲ爲サムトスル者ハ製造品ノ名稱、製造場、原料品又ハ製造品ノ藏置場、一年間ニ於ケル原料品使用見込高及原料品ノ輸入手數ヲ爲スヘキ稅關名ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ承認ハ落花生油又ハ油糟ニ付テハ一製造場ニ於テ使用スヘキ輸入原料品中一品ノ使用見込高一年三十萬斤ニ達スルモノアル場合ニ限リ之ヲ與ヘ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種第三號乃至第五號ノ物品ニ付テハ落花生油又ハ油糟ノ製造ニ付承認ヲ受ケタル製造場ニ於テ製造スルモノニ限リ之ヲ與フルモノトス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製造場所轄稅務署ハ前條ノ承認ヲ取消スコトヲ得

一　製造者カ大正十年勅令第二百三十八號又ハ本令其ノ他關稅ニ關スル法令ニ違反シ又ハ當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ

二　落花生油又ハ油糟製造者ノ毎二年ノ輸入原料品使用高ノ一年平均カ前條第二項ノ斤數ニ達セサルトキ

第三條　製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一月前ニ製造場所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第四條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル原料品ノ輸入申告ハ第一條ノ承認ヲ受ケタル製造者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用セムトスル者ハ使用前原料品ノ名稱、種類、數量、使用ノ目的、製造場及藏置場ヲ記シタル文書ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ添付シ製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

大正十年勅令第二百三十八號第三條第三項ノ規定ニ依リ氷砂糖ノ製造ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ輸入免狀又ハ證明書ニ代フルニ精製糖ニ對スル稅務署ノ製品檢査書ヲ以テスヘシ

第六條　大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ原料品ヲ混淆使用シテ製造ヲ爲サムトスル者ハ前條第一項ノ規定ニ依ル申告書ニ混淆スヘキ他ノ原料品ノ品名、種類、數量及使用ノ割合ヲ附記スヘシ

第六條ノ二　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ其ノ製造品ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ原料品ノ輸入申告者ハ其ノ事實ヲ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ稅關ハ亡失シタル地ノ所轄稅務署又ハ警察官署ノ亡失證明書ヲ前項申告ノ際提出セシムルコトヲ得

14,7
380

第七條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ他ノ用途ニ供セムトスルトキ又ハ大正十年勅令第二百三十八號第一條第二種製造品ヲ輸出以外ノ目的ニ供セムトスルトキハ製造者ハ其ノ旨製造場所轄稅務署ニ申告シテ承認ヲ受クヘシ

第八條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品又ハ製造品及副産物ハ他ノ同種ノ原料品又ハ製造品及副産物ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第九條 製造者輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シ製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ製造品及副産物ノ名稱及數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シテ檢査ヲ受クヘシ

第十條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ使用シテ製造シタル物品又ハ副産物ヲ製造場ヨリ搬出セムトスルトキハ其ノ名稱、數量及搬出先ヲ記シタル文書ヲ以テ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 大正十年勅令第二百三十八號第一條ノ製造品ヲ輸出セムトスルトキハ輸出申告書ニ第一種品ニ在リテハ製造者ノ作製シタル製造證明書第二種品ニ在リテハ稅務署ノ製品檢査書ヲ添付スヘシ但シ第一種第二號乃至第十四號、第十六號、第十八號及第十九號ノ製造品ニ在リテハ其ノ原料品ノ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書又拂戻率カ從價稅ニ依レルモノニ在リテハ納付シタル輸入稅額ヲ證スヘキ書類ヲモ添付スルコトヲ要ス

前項ノ製造證明書又ハ製品檢査書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一 第二種製造品ニ付テハ原料品ノ輸入免狀番號及輸入手數ヲ爲シタル稅關名

二 製造品ノ名稱及數量

三 第一種製造品ニ付テハ製造品ヲ構成スル輸入原料品ノ名稱、種類及數量第二種製造品ニ付テハ其ノ製造ニ使用シタル輸入原料品ノ名稱、種類及數量但シ大正十年勅令第二百三十八號第三條ノ規定ニ依リ輸入原料品ト同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副産物ニ付テハ各原料品ノ割合

四 製造場

五 證明書又ハ檢査書作成ノ年月日

第十二條 製造者大正十年勅令第二百三十八號第二條製造品ノ製造ヲ終リタルトキハ其ノ製造品及副産物ノ名稱、數量竝之ニ使用シタル原料品ノ名稱、種類及數量ヲ製造場所轄稅務署ニ申告シ檢査ヲ受ケ其ノ製品檢査書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ製品檢査書ハ前條第二種品ノ檢査書ニ準シ作成スヘシ

第十三條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル原料品ヲ用キ製造シタル第二種製造品ヲ輸出スルトキハ其ノ原料品ノ輸入手數ヲ爲シタル稅關ヲ經由スヘシ但シ輸入手數ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 輸入稅ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ製造品輸出稅關ニ申請スヘシ

第十五條 製造者ハ左記事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 輸入原料品ノ名稱、種類、數量、藏置場、輸入手數ヲ爲シタル稅關及製造場ニ搬入ノ年月日

二　使用シタル輸入原料品及之ト混淆使用シタル他ノ同種ノ原料品ノ名稱、種類、數量及使用ノ年月日

三　製造品及副產物ノ名稱、數量及製造ノ年月日但シ輸入原料品ト他ノ同種ノ原料品ヲ混淆使用シテ製造シタル製造品及副產物ニ付テハ各原料品ノ使用割合

四　第九條ノ檢査ヲ受ケタル製造品及副產物ノ名稱、數量及檢査ノ年月日

五　製造場ヨリ搬出シタル原料品、製造品及副產物ノ名稱、數量、搬出先及搬出ノ年月日

六　原料品、製造品又ハ副產物ニシテ製造場ニ於テ亡失シタルモノアルトキハ其ノ名稱、種類、數量、亡失ノ事由及其ノ年月日

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年省令第二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年省令第十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律（大正十三年七月三十一日法律第二十四號）

改正　大正十四年四月一日法律第四十一號

關稅定率法別表輸入稅表ニ揭クル物品ニシテ本法ノ別表ニ揭クルモノニハ當分ノ內同輸入稅表ニ依ラス從價十割ノ輸入稅ヲ課ス

切リ若ハ磨カサル貴石若ハ半貴石又ハ工ヲ加ヘサル琥珀ニシテ機械用品又ハ工業用品ノ製造ニ供スルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル輸入稅ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際免除スヘキ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得（大正十四年法律第四十一號本項追加）

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十三年法律第二十四號第二項ニ揭クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税一部免除ニ關スル件

（大正十四年四月一日勅令第五十六號）

第一條 大正十三年法律第二十四號第二項ニ揭クル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入税ニ付テハ左ノ割合ニ依リテ算出シタル金額ヲ免除ス

貴石 輸入税ノ九割五分
半貴石 輸入税ノ八割
琥珀 輸入税ノ八割

第二條 大正十年勅令第二百三十八號第三條第二項、第四條第一號第三號第五號、第五條及第六條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ免除スル場合之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件

（大正十四年四月一日大藏省令第八號）

大正十四年勅令第五十六號ノ施行ニ關シテハ大正十年大藏省令第十八號第一條第一項、第二條第一號、第三條、第四條、第五條第一項、第七條、第八條、第十條、第十二條及第十五條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

14.7
380

14
7
380

殖民地關係

14
7
380

◉殖民地關係

○內地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル法律（大正九年八月七日法律第五十一號）

改正　大正十五年三月二十七日法律第二十三號

左ニ揭クル物品ニシテ內地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ內國稅ヲ免除若ハ拂戾シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得

酒類、麥酒、酒精、酒精含有飲料、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、骨牌（大正十五年法律第二十三號改正）

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年法律第二十三號）

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前朝鮮ニ移出シタル醬油、賣藥及賣藥類似品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件

（大正九年八月二十六日勅令第三百十一號）

改正　大正十年六月二十八日勅令第二百九十號
同　十五年三月三十一日勅令第三十九號

大正九年法律第五十一號ニ依ル內地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅ノ免除若ハ拂戻又ハ交付金ノ交付ニ關シテハ輸出免狀ニ關スル規定ヲ除クノ外外國ニ輸出スル當該物品ニ付定メタル法令ヲ準用ス但シ輸出手續ニ關スル稅關ノ事務ハ移出ヲ爲サムトスル地ノ所轄稅務署之レヲ行フ

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ對スル交付金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ規定ニ依ルノ外朝鮮ニ於テ移入手續ヲ爲シタル稅關ノ移入免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ當該稅務署ニ提出スヘシ但シ郵便ニ依リ移出シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス（大正十年勅令第二百九十號改正）

前項ノ規定ハ骨牌稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ニ付之ヲ準用ス（大正十五年勅令第三十九號改正）

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年勅令第二百九十號）

本令ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年勅令第三十九號）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律

（大正九年八月七日法律第五十二號）

改正　大正十一年四月十八日法律第四十九號

第一條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ內地又ハ樺太ニ移出スル物品ニ關シ移出地ノ法令ノ規定ニ依リテ課セラルヘキ出港稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ出港稅ニ相當スル金額ヲ徵收ス但シ罰金額ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（大正十一年法律第四十九號改正）

前項ノ出港稅ニ相當スル金額ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ出港稅ヲ逋脫シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條　第一條ノ罪ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第四條　朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ於テ第一條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本法ニ依ル處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ（大正十一年法律第四十九號改正）

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯則事件ニ付之ヲ準用ス但シ間接國稅犯則者處分法ニ定メタル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年法律第四十九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年六月一日ヨリ施行）

○大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件

（大正九年八月二十六日勅令第三百十二號）

大正九年法律第五十二號第五條ノ規定ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ收稅官吏及稅關官吏トシ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ稅關官吏ノ發見ニ係ル犯則事件ニ付テハ犯則事件發見地ヲ管轄スル稅關長トシ其ノ他ノ事件ニ付テハ內地ニ在リテハ稅務署長樺太ニ在リテハ樺太支廳長トス

大正九年法律第五十二號ニ依ル犯則事件ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

14
380

間接國稅犯則者處分

14,7
380

◉間接國稅犯則者處分 (明治三十三年三月十七日法律第六十七號)

○間接國稅犯則者處分法

改正 明治三十七年四月一日法律第十一號
同 四十一年三月六日法律第 八 號

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ捜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第五條 收稅官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏捜索ヲ爲ストキハ捜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ

前項ニ揭クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏

14,7
380

員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條　收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所持者又ハ所有者ハ其ノ差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得(明治四十一年法律第八號改正)

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス(同上)

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

(明治三十七年法律第十一號改正)

第八條　收稅官吏ハ日沒ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日沒後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

(明治四十一年三月法律第八號本項追加)

第九條　收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條　收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顚末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第十一條　犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス

(明治三十七年法律第十一號改正)

稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ(同上)

第十二條　收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域內ニ限ル但シ既ニ着手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上)

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條　收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ(同上)

一　犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ

二　犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三　證憑湮滅ノ虞アルトキ

第十四條　稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當スル物品ニ

付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得（同上本條改正）（明治四十一年法律第八號本條改正）
犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ

第十五條　第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ
第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス（明治四十一年法律第八號本項追加）

第十七條　犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治三十七年法律第十一號改正）
犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ（明治四十一年法律第八號本項追加）

第十八條　犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ
前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條　稅務署長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之カ解除ヲ命スヘシ（明治三十七年法律第十一號改正）

第二十條　本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

○間接國稅犯則者處分法等ヲ樺太ニ施行スルノ件（抄錄）

（大正元年八月二十日勅令第十二號）

第一條　左ニ揭クル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス
一　間接國稅犯則者處分法

附　則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○間接國稅犯則者處分法施行規則（明治三十三年三月二十三日勅令第五十二號）

改正　明治三十四年八月二十四日勅令第百七十號
同　三十五年四月二十六日勅令第百四十五號
同　三十五年十一月一日勅令第二百五十三號
同　三十七年四月一日勅令第九十二號
同　三十八年一月一日勅令第九號
同　三十八年四月十四日勅令第百三十五號
同　四十一年三月十六日勅令第四十二號
大正元年八月二十日勅令第十三號
同　三年七月二十五日勅令第百五十三號
同　十二年十二月二十七日勅令第五百二十三號
同　十五年三月三十一日勅令第四十號

第一條　間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス（明治三十四年勅令第百七十號本條改正）

一　酒造稅
二　酒精及酒精含有飲料稅
三　出港稅（大正元年勅令第三號改正）
四　麥酒稅
五　醬油稅（自家用醬油稅トモ）
六　砂糖消費稅
七　賣藥稅（大正十二年勅令第五百二十三號改正）
八　印紙稅
九　骨牌稅（明治三十五年勅令第百四十五號追加）
十　織物消費稅（明治三十八年勅令第九號改正）
十一　取引稅（大正三年勅令第百五十三號追加）（大正十二年勅令第五百二十三號改正）
十二　清涼飲料稅（大正十五年三月勅令第四十號追加）

第二條　收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ（明治四十一年勅令第四十二號改正）

第三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第四條　收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押タル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條　收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條　稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、

公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第七條　稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ（同上）

第八條　收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顚末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條　間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條　通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條　稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ（明治三十五年勅令第二百五十三號改正）

第十二條　犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條　收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第十四條　本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長之ヲ行フ（大正元年勅令第十三號追加）

附　則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十四年勅令第百七十號）

本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十五年勅令第二百五十三號）

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年勅令第九十二號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年勅令第九號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年勅令第四十二號）

本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正元年勅令第三號）

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正三年勅令第百五十三號）

本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年勅令第五百二十三號）

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

14/7/380

附　則（大正十五年勅令第四十號）

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○間接國稅犯則者處分法ニ依ル收稅官吏ノ證票樣式

（明治三十三年三月二十四日大藏省令第五號）

改正　明治三十五年十一月　一　日省令第二十五號
大正　七　年十二月二十八日省令第四十四號

明治三十三年法律第六十七號間接國稅犯則者處分法第四條ニ依リ收稅官吏ノ携帶スヘキ證票樣式左ノ通リ相定ム

樣式　用紙厚質白紙　縱四寸　横二寸五分

第何號

何稅務監督局（又ハ何稅務署）
官　氏　名

收　稅　官　吏章

何稅務監督局（又ハ何稅務署）印

大正何年何月何日交付

何稅務監督局（又ハ何稅務署）

○法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

（明治三十三年三月十三日法律第五十二號）

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅〔及葉烟草專賣〕ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　〔法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス〕

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ完納セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

地方稅

14/7
380

◉ 地方税

○地方税制限ニ關スル法律（明治四十一年三月三十一日法律第三十七號）

改正 明治四十三年三月二十八日法律第二十七號
明治四十四年三月二十五日法律第三十二號
大正九年八月五日法律第三十七號
大正十二年三月二十九日法律第三十號
大正十五年三月二十七日法律第二十五號

第一條 北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス（明治四十三年法律第二十七號、明治四十四年法律第三十二號及大正九年法律第三十七號改正）

一 北海道、府縣

附加税ノミヲ課スルトキ　宅地地租百分ノ三十四
其ノ他ノ土地地租百分ノ八十三

段別割ノミヲ課スルトキ　一段歩ニ付　毎地目平均金一圓

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ三十四、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ八十三ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二

14/7/380

二　其ノ他ノ公共團體
　附加稅ノミヲ課スルトキ　　　　宅地地租百分ノ二十八
　　　　　　　　　　　　　　　其ノ他ノ土地地租百分ノ六十六
　段別割ノミヲ課スルトキ　　　一段步ニ付　每地目平均金一圓
　附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ二十八、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ六十六ト附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ營業收益稅附加稅ヲ課スルノ外營業收益稅ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課稅スルコトヲ得ス（明治四十三年法律第二十七號、大正九年法律第三十七號、大正十二年法律第三十號及大正十五年法律第二十五號改正）

一　北海道、府縣　　　　營業收益稅百分ノ四十一
二　其ノ他ノ公共團體　　營業收益稅百分ノ六十

營業收益稅附加稅ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲サヽルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス（大正十五年法律第二十五號追加）

第三條　北海道、府縣ハ所得稅百分ノ二十四以內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス（明治四十三年法律第二十七號、大正九年法律第三十七號、大正十二年法律第三十號及大正十五年法律第二十五號改正）

北海道、府縣以外ノ公共團體ハ府縣費ノ全部又ハ一部ノ分賦ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコトヲ得ス（大正十五年法律第二十五號追加）

戶數割ヲ賦課シ難キ市町村ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ所得稅附加稅ヲ課スルコトヲ得但シ其ノ賦課率ハ所得稅百分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス（同上）

所得稅附加稅ノ賦課ニ付テハ所得稅法第二十一條第二項ノ規定ニ依ル第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ爲サヽルモノヲ以テ第一種ノ所得稅額ト看做ス（同上）

第二種ノ所得ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス（明治四十三年法律第二十七號追加）

第四條　府縣費ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ府縣稅制限ニ達スル迄課稅スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村稅制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ課稅スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣稅ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ課稅スルコトヲ得

左ニ揭クル場合ニ於テハ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ
二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ
三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ
四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各稅目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル但シ地租附加稅及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキハ附加稅カ制限ニ達シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキ亦同シ（明治四十三年法律第二十七號但書追加）

前三項ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　北海道、府縣以外ノ公共團體ニ對スル前條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得（大正九年法律第三十七號追加）

第七條　本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附　則

本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中地租、營業稅及所得稅ノ地方稅制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十三年法律第二十七號）

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（明治四十四年法律第三十二號）

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正九年法律第三十七號）

本法ハ大正九年度分ヨリ之ヲ適用ス

14.7 380

大正八年法律第二十九號ハ大正八年度分限リ其ノ效力ヲ失フ

附　則（大正十五年法律第二十五號）

本法ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條第一項ノ改正規定中第四項ノ規定及附則第二項ノ規定ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セラルル營業稅額ハ大正十五年度分營業稅附加稅ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

○都市計畫法（抄錄）（大正八年四月五日法律第三十六號）

改正　大正十五年三月三十日法律第三十八號

第四條　都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第八條　公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受

ケ共ノ税率ヲ定ムヘシ

一　地租割　地租百分ノ十二以内

二　營業收益税割　營業收益税百分ノ二十二以内

三　營業税、雜種税又ハ家屋税　各府縣税十分ノ四以内（大正十五年法律第三十八號改正）

四　特別地税　北海道及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分ノ四以内、府縣及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分ノ五以内（大正十五年法律第三十八號追加）

五　其他勅令ヲ以テ定ムルモノ

營業收益税割ノ賦課ニ付テハ營業收益税法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子税額ノ控除ヲ爲サヽルモノヲ以テ營業收益税額ト看做ス（大正十五年法律第三十八號改正）

特別地税ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス（同上）

附　則（大正十五年法律第三十八號）

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益税割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

營業税法廢止法律ニ依リテ免除セラルル營業税額ハ大正十五年度分國税營業税割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

○地方税ニ關スル法律（大正十五年三月二十七日法律第二十四號）

第一條　北海道、府縣ハ本法ニ依リ特別地税、家屋税、營業税及雜種税ヲ賦課スルコトヲ得

第二條　特別地税ハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リテ地租ヲ徴收セサル田畑ニ對シ地租條例第一條ノ地價ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

特別地税ノ徴收ニ關シテハ地租條例第十三條ノ規定ヲ準用ス

第三條　特別地税ノ賦課率ハ北海道ニ在リテハ地價百分ノ二・六以内、府縣ニ在リテハ地價百分ノ三・七以内トス

特別地税ニ對シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ賦課スヘキ附加税ノ賦課率ハ前項ニ規定スル制限ノ百分ノ八十以内トス

第四條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第二條ノ例ニ依リ地價百分ノ二・九ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ前條第一項ニ規定スル制限ニ達スル迄特別地税ヲ賦課スルコトヲ得

北海道地方費又ハ府縣費ノ一部ノ分賦ヲ受ケタル市町村ハ前條第二項ニ規定スル制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ特別地税附加税ヲ賦課スルコトヲ得但シ北海道、府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ前條第一項ニ規定スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　特別地税又ハ其ノ附加税ト段別割トヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ第三條又ハ前條ノ規定ニ依リテ其ノ地目ノ土地ニ對シ賦課シ得ヘキ制限額ト特別地税額又ハ其ノ附加税額トノ

14/7
380

差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ賦課カ第三條乃至前條ニ規定スル制限ニ達シタル場合ニ非サレハ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依ル地租、營業收益稅又ハ所得稅ノ附加稅ノ制限外課稅ヲ爲スコトヲ得ス

特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別割トヲ併課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ前條ニ規定スル制限ニ達シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ特別地稅又ハ其ノ附加稅カ制限ニ達シタルモノト看做ス

第七條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ揭クル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一　內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ營業收益稅及所得稅ノ附加稅ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第二條及第三條ニ規定スル制限ニ達シタルトキニ限ル

第八條　特別地稅及其ノ附加稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租附加稅ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租附加稅額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　家屋稅ハ家屋ノ賃貸價格ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第十條　家屋ノ賃貸價格ハ家屋稅調查委員ノ調查ニ依リ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ決定ス

第十一條　左ニ揭クル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサルコトヲ得

一　一時ノ使用ニ供スル家屋

二　賃貸價格一定額以下ノ家屋

三　公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第十二條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第九條乃至前條ノ例ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第十三條　家屋稅及其ノ附加稅ノ賦課率及賦課ノ制限竝家屋ノ賃貸價格ノ算定及家屋稅調查委員ノ組織ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受ケサル營業者及營業收益稅ヲ賦課セサル營業ヲ爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第十五條　營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ハ營業收益稅法第二條ニ揭クルモノ及勅令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

14/7
380

第十六條　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第十四條及前條ノ例ニ依リ營業税ヲ賦課スルコトヲ得

第十七條　第十一條第三號ノ規定ハ營業税ニ之ヲ準用ス

第十八條　營業税ノ課税標準竝營業税及其ノ附加税ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　雜種税ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムルモノ竝内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十條　第十一條第三號ノ規定ハ雜種税ニ之ヲ準用ス

第二十一條　雜種税ノ課税標準竝雜種税及其ノ附加税ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　市町村ハ本法ニ依リ戸數割ヲ賦課スルコトヲ得

第二十三條　戸數割ハ一戸ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス

戸數割ハ一戸ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條　戸數割ハ納税義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十五條　戸數割ノ課税標準タル資力ハ納税義務者ノ所得額及資産ノ狀況ニ依リ之ヲ算定ス

第二十六條　第十一條第三號ノ規定ハ戸數割ニ之ヲ準用ス

第二十七條　戸數割ノ賦課ノ制限、納税義務者ノ資産ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スヘキ額其ノ他納税義務者ノ資力算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第七條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附　則

本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋税營業税及雜種税其ノ附加税竝戸數割ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治十三年第十六號布告及同年第十七號布告ハ大正十五年度分限リ之ヲ廢止ス

第六條及第七條中營業收益税トアルハ大正十五年度分特別地税及其ノ附加税ニ付テハ國税營業税トス

家屋税ハ大正十八年度分迄ニ限リ第九條乃至第十一條ノ規定ニ拘ラス別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ賦課スルコトヲ得

14 7
380

國稅徵收

14 7 380

◉國稅徵收

○國稅徵收法（明治三十年三月二十六日法律第二十一號）

改正 明治三十五年三月二十八日法律第三十六號
明治四十四年三月二十五日法律第三十七號
明治三十八年三月九日法律第四十六號
大正三年三月二十七日法律第十二號

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價格ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號改正）

一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
三 强制執行ヲ受クルトキ

14/7
380

四　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
五　競賣ノ開始アリタルトキ
六　法人カ解散ヲ爲シタルトキ
七　納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二　前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、强制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）

督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、强制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（同上）

第四條ノ三　相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得（同上）

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス（同上）

第四條ノ四　共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス（同上）

第四條ノ五　同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ稅金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號改正）

第四條ノ六　納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル（同上）

第四條ノ七　納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）

第四條ノ八　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス（明治三十五年法律第三十六號及明治三十八年法律第四十六號改正）

第二章　徵收

第五條　市町村ハ其ノ市町村內ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス（明治四十四年法律第三十七號及大正三年法律第十二號改正）

第六條　國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納

14/7
380

付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條　納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲サヽルコトアルヘシ

第八條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第九條　國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス（明治三十五年法律第三十六號改正）

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、延滯金ヲ徵收ス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）

第三章　滯納處分

第十條　左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ（明治三十五年法律第三十六號改正）

一　納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料、延滯金及稅金ヲ完納セサルトキ（明治四十四年法律第三十七號改正）

二　第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ

第十一條　收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條　差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、延滯金、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）

第十三條　收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條　收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條　滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルヽ爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一　滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

二　滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭

三　實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四　祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五　系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六　職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七　勳章其ノ他名譽ノ章票

14/7
380

八　滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九　發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條　左ニ揭クル物件ハ他ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サヽルモノトス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）

一　農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬竝其ノ飼料

二　職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條　滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ（明治三十五年法律第三十六號改正）

第二十條　收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戶扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財產ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日沒マテニ限ル

第二十一條　收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ揭ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員（市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長及其ノ附屬吏員）若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條　動產及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ（明治三十五年法律第三十六號改正）

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス（明治三十八年法律第四十六號追加）

第二十三條ノ一　債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）

第二十三條ノ二　債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ（明治三十五年法律第三十六號追加 明治三十八年法律第四十六號改正）

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登錄ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ（明治三十八年法律第四十六號改正）

第二十三條ノ三　不動產又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ（明治三十五年法律第三十六號及明治三十八年法律第四十六號改正）

差押ノ爲不動產ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ四　差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス（明治三十八年法律第四十六號改正）

第二十四條　差押ヘタル動產、有價證券、不動產及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ

給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十五年法律第三十六號改正）
公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價額ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得（同上）
債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス（明治三十八年法律第四十六號追加）

第二十五條　見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條　滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條　滯納處分費ハ財產ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス（明治三十五年法律第三十六號改正）

第二十八條　物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年法律第三十七號改正）
賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ揭ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滯金、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス（同上）

第二十九條　會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財產ヲ以テ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得（明治四十四年法律第三十七號改正）

第三十條　此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號改正）

第三十一條　滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、延滯金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス（明治三十五年法律第三十六號及明治四十四年三月法律第三十七號改正）

第四章　罰則

第三十二條　滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脫漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幇助シ又ハ虛僞ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章　附則

第三十三條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
沖繩縣及東京府管內小笠原島、伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス（註、沖繩縣ハ明治三十五年勅令第二百七十五號明治三十六年勅令第二百七十八號ヲ以テ本法ヲ施行セラル）
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス
北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス（註、明治三十四年法律第三號北海道地方費法ニ因リ自然消滅）

14/7 380

第三十四條　明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（明治四十四年法律第三十七號）

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正三年法律第十二號）

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國稅徵收法施行規則（明治三十五年四月十一日勅令第百三十五號）

改正　明治三十八年三月二十二日勅令第六十七號
明治四十四年十二月七日勅令第二百八十二號
大正九年十二月二十七日勅令第五百八十八號
大正十一年三月三十一日勅令第百七十號

第一條　收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

（大正十一年勅令第百七十號改正）

第二條　市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條　市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條　市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス（大正十一年勅令第百七十號改正）

第六條　市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條　市町村ハ納期內ニ稅金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ揭クルモノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵收ヲ完フスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一　納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二　造石數查定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飮料竝醬油ノ造石稅及造石數查定濟ノ麥酒稅

三　當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條　國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條　國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十一條ノ二　前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年勅令第二百八十二號追加）

一　納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三　納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國內ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滯金ヲ徵收セス（同上）

第十二條　質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

14/7 380

14
7
380

第十三條　民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ强制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條　差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十六條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

一　滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二　差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　差押ノ事由

四　調書ヲ作リタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ（同上）

收稅官吏差押調書ヲ作リタルトキハ其ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

第十七條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ（同上）

第十八條　公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條　國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

一　滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二　公賣財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　入札又ハ競賣ノ場所、日時

四　開札ノ場所、日時

五・保證金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額

六　代金納付ノ期限

第二十條　財產公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得（大正九年勅令第五百八十八號改正）

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條　公賣ハ財產所在ノ市區町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ

保存費ヲ要スルモノ又ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　財產ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條　賣却シタル財產ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ（明治三十八年勅令第六十七號改正）

前項ノ期間內ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條　財產ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條　公賣財產ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條　前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條　國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、强制管理人、破產主任官又ハ淸算人ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及滯納稅金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

第三十條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財產ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記錄ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條　納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附　則

第三十二條　市制町村制ヲ施行セサル地方（稅務署所在地ヲ除ク）ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅（酒類、酒精、酒精含有飮料竝醬油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク）ヲ徵收シ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ（大正十一年勅令第百七十號改正）

第三十三條　前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條　本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條　本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治三十八年勅令第六十七號）

本令ハ明治三十八年法律第四十六號ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十四年勅令第二百八十二號）

本令中延滯金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル明治四十四年分租稅ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正十一年勅令第百七十號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國稅徵收法施行細則（明治三十年六月二十六日大藏省令第十號）

改正　明治三十三年四月四日省令第九號　明治四十年十月十日省令第四十二號
同　三十四年四月十八日省令第二號　同　四十一年四月二十八日省令第十五號
同　三十四年九月二十七日省令第十八號　同　四十四年十二月八日省令第四十一號
同　三十五年四月十一日省令第八號　大正二年五月八日省令第十二號
同　三十五年六月二十一日省令第十六號　同　四年一月二十八日省令第二號
同　三十五年七月十五日省令第十九號　大正四年七月二日省令第十八號
同　三十五年十一月一日省令第二十六號　同　五年十二月二十一日省令第三十三號
同　三十六年五月二十三日省令第十二號　同　十一年三月三十一日省令第二十八號
同　四十年三月二十八日省令第十二號

第一條　國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ（明治三十四年省令第十八號、明治三十五年省令第八號及明治三十五年省令第二十六號改正）

第二條　市町村（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長）ノ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ市町村（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長）ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ（明治三十五年省令第二十六號改正）

第二條ノ二　稅務署長ハ納稅人又ハ市町村ノ爲便宜ト認ムル納付場所ヲ指定スヘシ

14/7 380

14/7
380

納稅人又ハ市町村ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅スルヲ便宜トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得（明治三十五年省令第二十六號及明治四十四年省令第四十一號改正）

（第三項）削除（大正四年省令第二號、大正四年省令第十八號改正大正十一年省令第二十八號削除）

第三條ノ一　市町村　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長　前條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ（明治三十五年省令第八號改正）

第三條ノ二　納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ（明治三十五年省令第八號改正）

第四條　市町村其ノ領收シタル稅金ヲ日本銀行ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付書ヲ添附スヘシ（大正十一年省令第二十八號改正）

第五條　市町村　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長　滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納報告書ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ（明治三十五年省令第二十六號改正）

第六條ノ一　稅務署長稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ但シ延滯金ヲ徵收スヘキモノニ付テハ第七號書式ニ依ルヘシ（明治三十四年省令第十八號、明治三十五年省令第八號、同年省令第二十六號、同四十年省令第十二號、同四十四年省令第四十一號改正）

第六條ノ二　前條ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ日本銀行ニ納付セシムルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ（明治四十年省令第十二號、同四十四年省令第四十一號及大正十一年省令第二十八號改正）

一　市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第八號書式第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

二　收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第九號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ二ヲ準用ス（大正四年省令第十八號改正）

第六條ノ三　納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手數料ヲ日本銀行ニ納付スヘキ場合ニ於テハ前條第一號ノ納付書又ハ第二號ノ納付書及收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附シ稅務署ニ納付スヘキ場合ニ於テハ市町村又ハ收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添附スヘシ（明治四十四年省令第四十一號、大正十一年省令第二十八號改正）

第六條ノ四　督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ナルトキハ收稅官吏ハ其ノ納稅告知書ヲ以テ稅金ヲ領收スルコトヲ得（明治三十五年省令第二十六號　明治四十四年省令第四十一號改正）

第六條ノ五　前三條ノ規定ハ滯納報告後督促狀發付前稅金ヲ領收スル場合ニ之ヲ準用ス（明治四十四年省令第四十一號改正）

第六條ノ六　延滯金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ稅金及督促手數料ト共ニ之ヲ稅務署ニ納付スヘシ（明治四十四　省令第四十一號改正）

第七條　削除（大正五年省令第三十三號削除）

前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第八條　削除（明治四十四年省令第四十一號削除）

第九條　稅務署長ハ國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ（明治三十四年省令第十八號、同三十五年省令第八號、同三十五年省令第二十六號改正）

用紙厚紙　縱二寸五分　橫一寸五分

表

第「何」號
國稅滯納者
財產差押
證票
稅務署印

裏

「何」稅務署
「官　氏　名」

第十條　收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十號書式、債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第十一號書式ノ差押通知書ヲ發スヘシ（明治四十四年省令第四十一號改正）

第十一條　國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ（明治三十五年省令第八號、明治四十四年省令第四十一號改正）

第十二條　收稅官吏財產ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得（明治三十五年省令第八號改正）

第十三條　入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財產ノ種類員數及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スヘシ（明治三十五年省令第八號改正）

第十四條　入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條　競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得（明治三十五年省令第八號改正）

第十六條　加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財產見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス（明治四十年省令第四十二號）

第十七條　公賣財產ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ（明治三十四年省令第十八號及明治三十五年省令第二十六號改正）

第十八條　督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十三號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ（明治三十五年省令第八號、明治三十六年省令第十二號及明治四十四年省令第四十一號改正）

第十九條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十四號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ（明治四十四年省令第四十一號改正）

第二十條　收稅官吏ハ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ヲ供託シタルトキハ其ノ旨債權者又ハ滯納者ニ通知スヘシ（明治四十四年省令第四十一號改正）

附　則（明治四十四年省令第四十一號）

本令ハ明治四十四年勅令第二百八十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十五年三月三十一日迄ハ延滯金ヲ徵收スヘキモノニ對スル督促狀ヲ除ク外從來ノ書式ニ依ルコトヲ得

附　則（大正四年省令第二號）

本令ハ大正四年勅令第六號施行ノ日ヨリ施行ス

（書式省略）

14/7
380

○郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムル件（大正四年一月二十七日勅令第六號）

改正　大正十一年三月二十八日勅令第六十六號

郵便官署ハ各官廳ノ徵收スル歳入金ノ受入及日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ於テ支拂ヲ要スル歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得其ノ範圍及取扱ニ關スル規程ハ遞信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第六十六號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程（大正四年一月二十八日大藏省令第一號）

改正　大正十年六月二十八日省令第二十三號
大正十一年三月二十九日省令第二十一號

第一條　大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ハ左ニ掲クルモノニ限ル（大正十一年省令第二十一號改正）

一　稅務署ノ直接徵收スル國稅金
二　北海道廳、府縣、稅務署、稅務監督局ノ收納スル國庫ノ諸收入金
三　收入官吏カ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ拂込ムヘキ前二號ノ收入金
四　市（區）町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金
五　日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金

第二條　歳入徵收官（分掌官ヲ含ム以下同シ）ハ其ノ在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニ對シ前條第一號及第二號ノ國稅金又ハ諸收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納人ニ對シ第一號書式ノ納稅告知書又ハ第二號書式ノ納入告知書ヲ發スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ郵便局ヲ特ニ指定スルコトヲ得

納人カ前項ノ道廳府縣管外ニ在ルトキハ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲ指定スヘシ但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ郵便局ヲ指定スルコトヲ得

歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管内ニ在ル納人ニシテ當該道廳府縣管外ノ郵便局ニ歳入金ヲ納付セムトスルトキハ前項ヲ準用ス

第三條　國稅滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第三號及第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添附スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第三號書式ノ納付書ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條　納人前二條ノ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條　收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徵收官在勤廳所在地ノ道廳府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込コトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十條ノ規定ニ拘ハラス其ノ領收シタル金額ハ毎日之ヲ取纏メ翌日限之ヲ拂込ムヘシ（大正十一年省令第二十一號改正）

第六條　市（區）町村ニ對シ稅務署ノ發付スル納額通知書ニ指定スヘキ國稅金ノ送付場所ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

市（區）町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ

第七條　郵便局ニ於テ納人又ハ市（區）町村ヨリ領收シタル國稅金又ハ諸收入金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書ニ依リ徵收簿ニ收入濟額ヲ登記スヘシ

第八條　收入官吏ハ第五條ニ依リ郵便局ニ拂込タル金額ハ日本銀行ニ拂込タル金額ト區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歳入徵收官ニ報告スヘシ（大正十一年省令第二十一號改正）

第九條　歳入徵收官ハ前條ノ報告ニ依リ徵收報告書現金拂込仕譯欄ニ登記シ郵便局出納官吏ノ取扱ヒタル現金振替拂込仕譯ニ付テハ前月迄拂込未濟及差引翌月ヘ越高ヲ收入官吏ノ現金拂込仕譯中各相當欄ノ次ニ外書登記スヘシ（大正十年省勅第二十三號改正）

第十條　日本銀行ハ取纏郵便局出納官吏ヨリ第七號書式ノ各廳歳入金振替拂込書ニ歳入金振替證券ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歳入ニ受入ノ手續ヲ爲スヘシ（大正十一年省令第二十一號改正）

日本銀行ハ前項ノ振替證券ニ依リ日本銀行本店ニ振替廻送ノ計算ヲ爲シ振替證券ハ之ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ（同上）

第十一條　日本銀行本店ハ前條歳入金振替證券ヲ貯金局出納官吏ニ提出シ該證券金額ニ相當スル小切手ノ交付ヲ受ケ日本銀行ヨリ振替廻送受入ノ計算ヲ爲スヘシ（大正十一年省令第二十一號改正）

第十一條ノ二　支出官ハ日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ對シ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル支出官（以下單ニ朝鮮等ノ支出官ト謂フ）內地ノ債主ニ支拂ヲ爲ス場合亦同シ（大正十一年省令第二十一號改正）

第十二條　支出官前條ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ受取人ノ住所、氏名及何地郵便局ニ於テ支拂ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ其ノ小切手ノ支拂店ニ送付シ第八號書式ノ郵便局扱歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ朝鮮等ノ支出官ニ在リテハ該通知書中ノ取纏郵便局ニハ遞信大臣ノ指定スル郵便局ヲ記載シ欄外餘白ニ「特拨」ノ印ヲ押捺スルモノトス（同上）

第十三條　日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ第九號書式ノ各廳歳出金繰替拂案內書ヲ作成シ之ヲ指定ノ拂渡郵便局ニ送付スヘシ但シ朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲、青島及天津ニ在ル日本銀行（以下單ニ朝鮮等ニ在ル日本銀行ト謂フ）ハ該繰替拂案內書ノ送付ト同時ニ適宜ノ通知書ヲ日本銀行本店ニ送付スヘシ（同上）

第十四條　日本銀行ハ取纏郵便局ヨリ各郵便局ニ於ケル繰替拂渡濟ノ郵便局扱歳出金支拂通知書並日計表正本ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ歳出金ノ計算及日本銀行本店ヨリ振替廻送ノ計算ヲ爲シ之ニ相當スル振替拂證書ヲ作成シ取纏郵便局ニ送付スヘシ（同上）

前項ノ郵便局扱歳出金支拂通知書ニシテ第十二條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ日本銀行本店ハ之ヲ朝鮮等ニ在ル日本銀行ニ送付スヘシ（同上）

第十四條ノ二　日本銀行國庫金取扱規程第三十三條及第四十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス（同上）

第十五條　日本銀行本店ハ貯金局出納官吏ヨリ第十四條振替拂證書ニ預託金拂込書ヲ添ヘ振替拂込ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ振替ノ計算ヲ爲シ歳出ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ振替廻送拂出ノ計算ヲ爲スヘシ（同上）

第十六條　朝鮮等ニ在ル日本銀行第十四條第二項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル郵便局扱歳出金支拂通知書ハ之ヲ調査シテ前條ノ手續ヲ爲シ日本銀行本店トノ間ニ於ケル振替受拂ノ手續ヲ爲スヘシ（同上）

第十七條　本令ニ定ムルモノヲ除ク外支出官ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムル場合ノ取扱手續ニ付テハ支出官事務規程第九條乃至第十二條、第十四條、第十五條、第十七條及第二十九條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス（同上）

附　則

本令ハ大正四年一月勅令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十年省令第二十三號）

本令ハ大正十年七月分ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年省令第二十一號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支出官事務規程第四十條及第四十一條ノ規定ハ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサル歳出金仕拂通知書ノ支拂ニ付之ヲ準用ス本令施行ノ際現存スル用紙ハ當分ノ内之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ得

（書式省略）

○國庫出納金端數計算法（大正五年一月二十九日法律第二號）

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條　國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條　分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條　分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分

14/7 380

14 7 380

納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　賣藥印紙税及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第七條　本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國税指定ノ件（大正五年三月三十一日大藏省令第二號）

改正　大正七年四月四日大藏省令第十一號
大正十五年六月二十一日大藏省令第二十六號

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國税ヲ指定スル左ノ如シ

一　第一種所得税

二　第三種所得税
三　營業税
四　營業收益税（大正十五年省令第二十六號追加）
五　乙種資本利子税（同上）
六　相續税
七　取引税
八　取引所營業税
九　鑛產税

附　則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
（大正七年大藏省令第十一號ヲ以テ追加セラレタル臨時利得税ハ大正十五年同第二十六號ヲ以テ削除）

14
7
380

大正十五年十二月十八日印刷
大正十五年十二月二十三日發行

租稅法規提要
定價金五拾錢

不許複製

大藏省編纂

發行者　東京市小石川區大塚坂下町一四八
三澤熊次

印刷者　東京市牛込區西五軒町五二
行政學會印刷所第二工場

發行所　東京、丸の內
東京稅務監督局內
東京財務協會
（振替東京三三〇六二）

14
7
380

14,7,
380

14,7
380

14
7
380